

## 令和5年度 第5回美里地域会議 会議録

日 時：令和5年8月10日（木曜日）午後7時から午後8時25分まで

場 所：美里交流館 多目的ホール

出席者：安田副市長

＜地域会議委員＞青木 徹、大坪 道助、岡田 宏之、岡本 渉、小林 忠雄、  
柴田 勝正、代田 正晴、千葉 善郎、中島 康隆、  
細川 章一、松村 洋、望月 英光、山本 由和、山田 正見  
（欠席）笠松 保希、豊田 博久、成田 恵美子

＜企画政策部＞辻部長

＜地域振興部＞中川室長

＜企画課＞丹羽副課長

＜都市計画課＞西岡担当長

＜高橋支所＞出口副支所長、吉野担当長、川瀬主査

### ＜内容＞

#### 1 豊田市民の誓いの唱和

#### 2 会長あいさつ

#### 3 諮問書授受

安田副市長から岡田会長へ諮問書を手渡した。

【諮問内容の抜粋】

第9次豊田市総合計画に掲げる本市のまちづくりの方向性である「（仮称）ミライ構想」のめざす姿やまちづくりの基本的な考え方、都市構造について貴地域会議に意見を求めます。

#### 4 副市長あいさつ

- ・第9次豊田市総合計画（以下「9総」という。）の将来都市像は、第8次豊田市総合計画（以下「8総」という。）を引き継いでいる。8総で掲げた「つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた」は、今までにはあまりない将来都市像だった。
- ・従来のベースは、「産業文化交流都市」であり、都市の目線で、都市の将来像を考えていた。市民の皆さんと一緒にまちづくりを進め、市民の皆さんの視点に立って将来都市像を考えたとき、「つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた」というフレーズが出てきた。特に、「つながる」ということが大切。人と人、人と地域、人と自然、世代と世代が繋がっていくことを大切にしていきたい。
- ・「つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた」という将来都市像は、市民の幸せのかたちを表現している。最近では、本市以外の多くの都市が、つながるというフレーズを入れている。先進的な形だった。

- ・ 8 総作成時点では、70 歳以上の高齢者が倍増と言われており、本市は特に高齢化の進みが早いと言われていた。8 総には、超高齢社会への適応を重点施策として入れた。生涯活躍部を作り、市民が生涯現役で、元気に、様々な分野で活躍できるような施策を取り入れた。超高齢社会に備え、保健部、福祉部と連携しながら展開してきた。
- ・ 総合計画には、それぞれの事業や施策について、細かくは出てこない。ベースとなる考え方や、自分たちが大切にしたい考え方の議論を始めるのが総合計画のスタート。難しく考えず、変化する時代に何が大事なのか、その思いを答申してほしい。

## 5 諮問内容の説明・質疑応答

諮問内容の詳細について、企画課の丹羽副課長、都市計画課の西岡担当長が以下のとおり説明した。

- ・ 8 総が令和 6 年度末で終了するため、9 総に向けて審議会を立ち上げ、協議している。
- ・ 総合計画の意義は、豊田市のまちづくりの羅針盤。変化の激しい社会の中で、常に見直していくことができる計画にしなければならない。ゴールまでの道筋を描く計画が多いが、本計画では、ゴールへの行き方は見直しできるものを予定している。
- ・ 重視している点は次のとおり
  - ① 「ひと」のつながりや活躍を支援し、新しい価値を創る計画
  - ② 様々な資源と先進技術を融合し、圏域をリードするまちを創る計画
  - ③ 戦略性と弾力性のある計画
- ・ 今回諮問している「(仮称) ミライ構想 (以下、「構想」という。)」は、理念的なものである。まちづくりを進めるうえでの基準を示している。構想の方向性として、8 総の「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」を継承し、とくに「つながる」を大切にしていきたい。切れてしまった繋がりや、コロナを契機に生まれた繋がりを、次の世代にどう生かすのかを考えていく。
- ・ 構想における都市構造の基本的な考え方は、『コンパクト+ネットワーク』。
- ・ 地域ごとの特性により、将来に渡って安心して暮らし続けることができるよう、暮らしに必要な都市・生活機能を拠点間で連携するとともに、デジタルの効率的な活用により機能を確保する。

<松村副会長>

説明を受けて、内容について質問のある委員は挙手をお願いします。

<代田委員>

- ・資料に記載のある「都市構造の実現に向けた方針」の5項目（生活、産業、移動、自然、防災）の順番に意味はあるのか。防災が一番下にあるのが気になる。

<西岡担当長>

- ・順番に意味はない。防災まちづくりの視点は重要だと考えている。

<代田委員>

- ・デジタルトランスフォーメーションを具体的に説明してほしい。

<丹羽副課長>

- ・デジタル技術を使うことで、新しい価値が生まれてくること。手紙の代わりにSNSを使用することで、新しい商売やコミュニティが生まれたように、代用ではなく新しいサービスが生まれること。

<安田副市長>

- ・市役所の窓口においても、来ていただき、待っていただき、書類を何枚も書いていただいていたが、来なくても、書かなくても済むようにならないかと考えている。来ていただいたからには、従来よりもしっかりサポートしたい。本市は、広範にデジタル化に取り組んでおり、今後も進めていきたい。

<岡本委員>

- ・デジタル化は、10年先にはもっと進んでいくと思う。
- ・美里地区区長会も、デジタル化に力を入れている。

<安田副市長>

- ・デジタル化で繋がりがなくなることは無いようにしていきたい。
- ・防災については、資料ではたまたま一番下に記載されているが、外せない項目であり、地震、風水害ともに力を入れて対策していく。

<細川委員>

- ・AIやDXの推進が大切なのは分かるが、その一つである、マイナンバー制度はどうなっているのか。豊田市の情報はどこに出ているのか、本当にミスは起きていないのか。不安が解消されてこそ、活用されるのではないか。

<安田副市長>

- ・公金受取口座の連携において、数字の印字がかすれており一件誤登録があったと聞いている。保険証については、国が管理しており、分からない部分もあるが、極めて少ないと認識している。だからと言って安心だということではないが、メリットもたしかにある。

<細川委員>

- ・ 8 総を継承していると言っていたが、どのようなねらいで進め、今どうなっているのか。例えば、人口はどうなったのか。老人は、最後まで元気に生活できているのか。資料がほしい。諮問内容が漠然としており、困っている。

<安田副市長>

- ・ 8 総の進捗は、ローリングをかけて達成度を確認し、施策が確実に進むよう管理している。計画が予算と連動し、評価と結びつくようにしている。

<丹羽副課長>

- ・ 参考資料として、審議会で使用している資料を提供する。
- ・ 評価指標として、市民意識調査の「住みよさ満足度」や「豊田市に住み続けたいか」の結果を参考にしており、順調に上昇していることから、良い方向に進んでいると判断している
- ・ 8 総では、高齢者への対応に力を入れて進めてきた。地域包括支援センターを中学校区に一つ作ることや、在宅医療の拠点となる地域医療センターの整備はしっかりできた。一方で、コロナがあり、「つながり」という意味で、共助や自助の部分はもう一度結びつきが必要だと考えている。

<山田委員>

- ・ 8 総のキーワードを継承するのであれば、どういう施策を行ってきたのか明らかにしてほしい。
- ・ 諮問はどの地域会議に行っているのか。

<西岡担当長>

- ・ 諮問は全地域会議に行っている。

<山田委員>

- ・ ベースとなる考え方について答申してほしいという依頼があったが、資料の裏面には具体的な内容が記載されている。答申では、ベースとなる考え方について答えればよいのか、具体的な施策まで答えた方がよいのか。

<安田副市長>

- ・ 都市の将来を考えるには、理念的な部分と、土地の使い方の部分の両輪でとらえてもらいたい。資料では具体的に見えてしまうと思うが、深掘しなくて良い。どのように都市を形作っていくかという点について、何か深められれば答えてもらえばよい。従来からこの形で表現しており、違和感があると思うが、両面で見てもらいたい。
- ・ 8 総における後期実践計画では、3つの重点施策がある。一つ目は超高齢社会への適応、二つ目は「ひと」と「しごと」が集まるミライへの投資、三つ目はまち

の課題解決力の強化である。さらに、それに基づく8つの基本施策がある。後日、資料を提供する。

#### <細川委員>

- ・都市計画の地図が公示されるが、それを見に行っても、その後の情報が公開されない。例えば、中央公園の計画。順調に進んでいるのか市民は分からない。地域から相当意見を挙げている。その後どうなったのか知ることができるようにしてほしい。

#### <中島委員>

- ・豊田市のEモニターをやっている。豊田市は色々なことをやっていて、自慢したい。しかし、住んでみたい都市のアンケートでは、名古屋市も豊田市も拳がってこない。なぜだろうと思っている。
- ・9総には、市民の声はどのくらい入っているか。

#### <安田副市長>

- ・住んでみたい都市に名前が挙がらないことについては、真摯に受け止めないといけない。一方で、どこで、誰を対象に、どのように聞くかで、結果がずいぶん変わってくる。全く住みたくないということではないと思っているが、アピールが不足しているのかもしれない。
- ・9総は、全地域会議への諮問に加え、これから市民の方に参加していただく機会がたくさんある。現在の案は原型。これから意見を聞いて反映していく。

#### <山本委員>

- ・同じ中核市と比べると、商業の部分が遅れているのではないか。週末の駅前が人が少ない。市民が楽しめる環境がないのでは。産業の要素は計画に組み込まれているが、商業の要素がないのでは。大規模商業施設の計画はあるか。

#### <安田副市長>

- ・商業に力を入れていないことはないが、郊外型のモールを作ることが良いことかという点については議論がある。郊外型のモールができると、中心市街地が廃れる傾向がある。本市では、中心市街地に文化施設を作り、人が集まるよう計画している。

#### <岡本委員>

- ・当地域会議では、これまで美里地区の課題を勉強してきた。その中から優先して取り組むべき課題の解決に向け、着手し始めたところである。それで手一杯な中、今回の諮問が行われ、委員の時間が取られてしまうことが残念だ。せめて、諮問の内容は、市の全体像ではなく、美里地区に関係する内容にするべきではないか。美里地区のことを勉強してきた我々の意見が生かせる諮問内容であってほしかった。

<安田副市長>

- ・美里地区でまちづくり活動をしている皆さんの意見を全市に還元してもらいたい。美里地域会議の活動とかけ離れたことを答申してほしいと思っているわけではない。普段思っていることを反映してほしい。

<代田委員>

- ・「子ども」に関する施策に興味がある。豊田市で子育てをしてもらいたい。豊田市で子育てをしたいと思ってもらえる魅力ある街にしてもらいたい。

<安田副市長>

- ・先ほど、中央公園に関する意見をもらったが、都市計画事業に関する情報発信を随時行えるようにしていきたい。

<望月委員>

- ・事務局から事前に資料をもらい、本日の会議までに勉強してきたが、全く分からない。8総の現状と評価を踏まえた上で、9総の構想があると思うが、今日の資料ではそれが分からず、とてがついていけない。8総の資料と、8総から9総へのつながりが分かる資料を提供してほしい。

## 6 市議あいさつ

会議を傍聴した岡田耕一議員、根本美春議員、水野博史議員があいさつした。

## 7 事務連絡

- (1) 令和5年10月12日（木曜日）、13日（金曜日）に開催の地域共生社会推進全国サミットについて、事務局から委員へ情報提供した。
- (2) 美里ふれあいフェスタにおける地域会議ブースの運営協力者について  
日にち：令和5年10月21日（土曜日）  
内 容：防災に関するクイズやアンケートを行う地域会議ブースを出展  
協力委員：午前の部（午前9時30分～午後0時30分）  
岡田会長、松村副会長、細川委員、山田委員  
午後の部（午後0時30分～午後3時30分）  
千葉委員、豊田委員
- (3) 今後の地域会議の予定について  
次 回：令和5年9月14日（木曜日）午後7時～  
場 所：美里交流館 多目的ホール  
内 容：第9次豊田市総合計画に関する答申内容の検討

【委員からの質問】

- ・ 答申書に記載された答申期限は令和6年1月末だが、美里地域会議が令和5年12月に答申するのはなぜか。

(事務局回答) 市内の28地域会議が諮問を受けており、全市統一の答申期限が1月末となっている。答申日の地域会議には市長が出席する予定となっており、スケジュール上、美里地域会議は12月に答申を行いたいと考えている。